

脳神経外科に入院歴のある患者さんまたはご家族の方へ  
(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 乳幼児もやもや病の病態、診断、治療に関する多施設調査

Moyamoya Disease with Aggressive Clinical Course in Infants for Safety and Healthy Growth (MACINTOSH) Study

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属] 脳神経外科 教授 藤村幹

[研究代表機関名・研究代表者名・所属]

富山大学学術研究部医学系 脳神経外科学 教授 黒田敏

[共同研究機関名・研究責任者名]

東北大学 脳神経外科 富永悌二、東京女子医科大学 脳神経外科 川俣貴一、東京大学 脳神経外科 齋藤延人、東京女子医科大学八千代医療センター 脳神経外科 川島明次、東京医科歯科大学 脳神経外科 成相直、京都大学 脳神経外科 宮本享、国立循環器病研究センター 脳神経外科 片岡大治・飯原弘二、岡山大学 脳神経外科 伊達勲、九州大学 脳神経外科 有村公一・西村中、名古屋大学 脳神経外科 荒木芳生、徳島大学 脳神経外科 高木康志

[研究の目的]

もやもや病小児例は、一過性脳虚血発作や脳梗塞で発症することが多く脳血行再建術が有効な治療方法として確立しています。しかし、もやもや病乳幼児例は、学童例と比較して、脳梗塞での発症が多く、長期予後が不良であることが知られています。また、各施設における患者数が少ないため乳幼児もやもや病に対する治療時期や外科手術の方法は施設ごとに異なることが現状です。このため、より良い乳幼児期もやもや病に対する治療成績を改善させるためのガイドラインの策定が望まれます。本研究は、これらのガイドライン策定の基礎となる研究です。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

北海道大学病院脳神経外科に通院歴があり、2008 年 1 月 1 日以降に 4 歳未満でもやもや病を発症した患者さん。手術の有無や時期は問いません。自己免疫疾患等の基礎疾患を有す

るもやもや病の症例も含めます。

○利用するカルテ情報

年齢、性別、既往歴、合併症、家族歴、就学状況、内服薬、脳血管イベント、神経症状、手術内容、採血検査、画像検査、知能検査

※カルテ情報は、患者情報登録および画像検査の解析のために富山大学医学部脳神経外科に、匿名化しディスク媒体（CD-ROM など）に記録して郵送します。

[研究実施期間] 実施許可日～2023年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができません。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

\*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院脳神経外科

担当医師 藤村 幹

電話 011-706-5779